

平成22年9月17日(金)

ＪＩＣＡ研修でドラム缶型簡易炭焼きを実施

9月17日(金)、ＪＩＣＡ(国際協力機構)からの受託研修「地域住民の参加による多様な森林保全コース」の研修生11名がパイロットフォレストを訪れました。根釧西部森林管理署からは、パイロットフォレスト造成当時の状況や現在の状況などを説明、また、1万ヘクタールの広域な森林を一望できる望楼から、広大に広がるカラマツ林を展望しました。釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターからは、パイロットフォレストに設置しているドラム缶型簡易炭窯の構造や炭焼きの手順等について説明し、研修生の皆さんにドラム缶型簡易炭焼きを実際に体験してもらいました。

研修生の中には炭焼きの経験者がみえ、言葉は通じませんでした。材の窯入れから火入れを手際よく進め、焚き口に炎が上がりました。また、事前に炭を焼き、準備していた窯を開け、炭を取り出しました。研修生からは、「いくらで炭を販売するのか?」、「窯の値段は?」、「炭作りの効率性は?」など、実用性に関する質問がありました。

(自然再生指導官 國井)



炭窯の構造等の説明



ドラム缶型簡易炭焼きを実際に体験